

大崎市バイオマス産業都市構想の概要

宮城県大崎市、人口 約13万人、面積 約8.0万ha

構想の概要

市内の豊かな地域資源を活用したエネルギーの地産地消を図り、地域産業での再生可能エネルギー導入を進め、「地域の活性化」、「産業の振興」、「災害に強いまちづくり」を目指す

1. 将来像

多くの市民と地域のバイオマス資源を活用することの意義、価値の共有を図り、「経済性が確保された、持続可能な地域産エネルギーの需要と供給の確立」を実現

3. 目標(10年後)

- ① バイオマス利用率
 - ・農業系
廃棄物系バイオマス:90%、未利用系バイオマス:84%
 - ・非農業系
廃棄物系バイオマス:70%、未利用系バイオマス:81%
- ② CO₂排出抑制効果:2,248t-CO₂/年

5. 実施体制

- ・「バイオマス産業都市構想検討委員会」を設置。各事業化プロジェクト及び大崎市産業振興対策審議会と協力・連携し、構想を推進。
- ・各事業化プロジェクトの主体が、チェック指標に基づき、進捗状況の評価等を実施。

2. 事業化プロジェクト

- ① 森のエネルギー採掘プロジェクト
間伐材のチップ製造拠点整備、間伐材の収集体制を構築
- ② Shift☆緑・自然エネルギープロジェクト
温泉施設へ熱供給するボイラー、災害時も熱供給が可能となるよう蓄電池等を整備
- ③ Nextバイオマスエネルギープロジェクト
家畜排せつ物及びブルーメン液を原料とする高効率メタン発酵施設整備、粕殻のエネルギー利用
- ④ 持続可能なバイオマス事業(BDF事業、ヨシペレット)
- ⑤ 普及啓発への取組

4. 地域波及効果

- ① 経済波及効果:1,219百万円(宮城県経済関連表による)
- ② 雇用者所得:316百万円
- ③ 雇用創出効果:63人
- ④ 災害時のエネルギー供給量:1,241.76GJ
- ⑤ 化石燃料削減額:44百万円
- ⑥ 二酸化炭素排出抑制効果:1,382t-CO₂/年

6. その他

- ・大崎市総合計画(H19)
- ・震災復興計画(H23)
- ・大崎市産業振興計画後期計画(H24)

大崎市バイオマス産業都市構想図

NEXTバイオマスエネルギープロジェクト



持続可能なバイオマス利用の推進